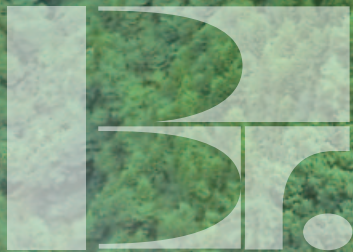


Br. Holdings Report

第17期 中間報告書

平成30年4月1日～平成30年9月30日



「人と人」「技術と技術」の橋渡し

欧州統一通貨ユーロ紙幣に描かれている

コミュニケーションを象徴する「Bridge」

ビーアールホールディングスは未来への架け橋を創る企業技術集団を擁する

ホールディング・カンパニーとして、企業価値の最大化、資本効率の更なる向上を

目指すとともに、技術で社会に貢献する企業グループとして、

これからもたゆまめ努力をし続けます。



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第17期の第2四半期連結累計期間の決算(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動の概況をとりまとめご報告させていただきます。

当社グループの手持工事高は43,635百万円と過去最高となりました。

当上半期受注高が13,709百万円と前年同期(8,429百万円)から62.6%と大幅に増加し、手持工事高が43,635百万円と前年同期(24,353百万円)を79.2%上回り、過去最高を更新しました。一方、当上半期の売上高に関しては、前年から繰り越した大型工事の進捗が伸びず、10,481百万円と前年同期(11,108百万円)から5.6%減少し、経常利益は68百万円と前年同期(771百万円)から91.1%、親会社株主に帰属する四半期純利益も7百万円と前年同期(478百万円)から98.4%と大幅に減少した結果となりました。尚、下半期には上半期の倍程度の売上を見込んでおります。

生産性向上への取り組み

当社グループは、土木用プレキャスト製品需要が拡大するなかで、持続的な成長及び収益拡大のためには生産性向上が不可欠と判断し、「安全性の向上」「省人化・省力化」及び「工期短縮」を目的として、平成28年9月の新株式発行及び当社株式の売出し並びに自己株式の処分などから極東興和(株)の大分、静岡、江津及びキョウトウ高宮(株)でPC床版製造ラインの増設などを実施しております。

担い手確保のための取り組み

当社グループは、技術者の確保を目的として、技術系職員は65歳を超えても在籍可能とする環境を整備するとともに、3~4年前から経験豊富な技術者をACE(Advanced Civil Engineer)として常時中途採用しております。また、教育機関との共同研究等から、優先的に新卒採用を実施し、工学博士や技術士を育成してきました。

働き方改革への取り組み

当社グループは、建設業として週休2日制に積極的に取り組み、ワークライフバランスを確保するとともに、今後とも技術開発を積極的に推進し、より多くの株主の皆様のご期待にお応えできるよう邁進してまいりますので、引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年11月



代表取締役社長

藤田 公康

Profile

(株)ビーアールホールディングス
代表取締役社長 藤田 公康
(昭和25年9月9日生)

- 昭和49年 慶応義塾大学法学部
政治学科卒業
- 昭和51年 ハートフォード大学
経営学部修士課程卒業
(MBA)
- 昭和51年 大塚製薬(株)入社
企画課長
- 昭和56年 極東工業(株)(現極東興和(株))
入社 取締役社長室長
- 昭和60年 同社代表取締役社長
- 平成5年 同社代表取締役会長
- 平成14年 当社取締役
- 平成17年 当社代表取締役社長(現任)

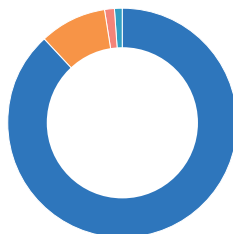
<兼職>

- 昭和63年 (社)広島青年会議所 理事長
- 平成2年 (社)日本青年会議所 会頭
- 平成27年 極東興和(株)
代表取締役社長

各事業区分の主要な内容

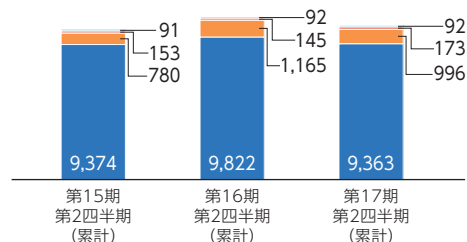
- 1 建設事業**
橋りょう土木工事の設計・施工
- 2 製品販売事業**
コンクリート二次製品の販売
- 3 情報システム事業**
システム開発・販売
- 4 不動産賃貸事業**
当社ビルのマンション賃貸運営等

○売上高構成比



(注) セグメント間取引を含めております。

○売上高推移(百万円)



建設事業

売上高 **93億63百万円** (前年同期比 **4.7%減**)



建設事業におきましては、高速道路会社の大規模更新事業である床版取替工事の大型物件の受注、鉄道建設・運輸施設整備支援機構の橋りょう新設工事の増額契約等により、当第2四半期連結累計期間の受注高は120億70百万円(前年同期比80.9%増)となりました。一方、前期からの繰越大型工事の進捗が伸びず売上高は93億63百万円(前年同期比4.7%減)、比較的採算性の良い工事の進捗が下半期に集中すること等から、セグメント利益は7億30百万円(前年同期比37.7%減)となりました。

製品販売事業

売上高 **9億96百万円** (前年同期比 **14.5%減**)



製品販売事業におきましては、当第2四半期連結累計期間の受注高は13億28百万円(前年同期比7.9%減)となりました。また、在庫製品の出荷が伸びず、売上高は9億96百万円(前年同期比14.5%減)、工場生産量低下によりセグメント損失は99百万円(前年同期セグメント利益91百万円)となりました。

情報システム事業

売上高 **1億73百万円** (前年同期比 **19.5%増**)



情報システム事業におきましては、当社グループのシステム機器更新等により、当第2四半期連結累計期間の売上高は1億73百万円(前年同期比19.5%増)となりました。一方、採算性の高い請負開発型の受注が減少し、セグメント損失は25百万円(前年同期セグメント損失11百万円)となりました。

不動産賃貸事業

売上高 **92百万円** (前年同期比 **0.6%減**)



不動産賃貸事業におきましては、当社所有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は92百万円(前年同期比0.6%減)、セグメント利益は55百万円(前年同期比4.7%減)となりました。

Topics 1

小女良橋耐震補強工事〈極東興和株式会社〉

小女良橋(こめらばし)は、美保関隕石で有名な島根県松江市美保関町に架かる昭和61年に完成した橋りょうです。本工事は、島根県松江県土整備事務所より発注されたもので、橋脚に発生したアルカリ骨材反応によるひび割れの恒久対策としてK-LIP工法が採用されました。

同工法は、躯体に削孔した穴に、アルカリ骨材反応の抑制効果のある亜硝酸リチウムを油圧により注入・拡散させる工法です。



Topics 2

印旛～柏井導水管3号調圧水槽耐震補強工事〈極東興和株式会社〉



※調圧水槽：高低差等による圧力上昇やバルブの開閉時などに生じる大きな圧力(水撃圧)からバルブ、ポンプ、パイプラインの破損を防止するために、水圧を調節して送水する目的で作られた重要な施設です。

水道は重要なライフラインの1つであり、地震等の自然災害により関連施設が損壊し断水した場合には、我々の生命までも脅かします。

工事の発注者である千葉県では、住民の生活を守るために防災計画が策定され、現在稼働中の水道施設の耐震補強等にも力を入れて取り組まれています。

調圧水槽*の基礎耐震補強工事となる本工事は、市街地に建設されている施設であることから狭隘地での施工が可能で、かつ騒音・振動の抑制効果に優れたSTマイクロパイル工法が採用されました。

水道施設や橋りょうなどの構造物の耐震補強において、今後も高い需要が見込まれるSTマイクロパイル工法にて貢献してまいります。



Topics 3

H28 国母立体橋耐震補強(その2)工事 (極東興和株式会社)

本橋りょうは、ロッキング橋脚と呼ばれる特殊な構造で、地震等で大きな変位が生じると自立できず不安定となる恐れがあります。

このロッキング橋脚を有する橋りょうが熊本地震にて落橋し道路が寸断されるなどの大きな被害が発生したことを踏まえ、高速道路や国道等で同じ構造を有する橋の耐震補強が優先して実施されています。

既設橋りょうの桁下での作業であり、狭隘地・低空頭での作業が可能な杭工法としてS Tマイクロパイル工法が採用されました。



Topics 4

仁淀川大橋耐震補強(その1)工事 (極東興和株式会社)



仁淀川大橋(高知県土佐市内)は、清流として名高い仁淀川の河口に近い国道56号に架かる橋です。本工事は、国土交通省から発注された耐震補強工事です。

今回は、橋桁を支える装置の交換や橋脚の補強を行いました。水中の橋脚補強は、従来仮設の工事用道路を造る必要がありましたが、河川への影響を考慮し、橋上から作業ができるように工夫をいたしました。

足場は、川に土砂を入れることなく、また川底に工作物を造らない構造とし、増水期には足場の構造を変えて対応しました。装置の交換では、橋桁をジャッキアップするために鋼製ブラケットを使用します。この鋼製ブラケットは、本来取付け場所ごとに形が異なるため転用できませんが、本工事ではこれを転用できるように工夫し、工期短縮や工事費の低減に貢献しました。これに対し、発注者様が自らの主催による現場見学会を開催されるほどの高い関心および評価をいただきました。

Topics 5

柿木原第2橋 (極東興和株式会社)

柿木原第2橋は、国道491号の山口県長門市依山小原と長門市深川湯本を結ぶ山陰自動車道の一部を構成する橋りょうで、災害時の代替ルートの確保や救急医療活動の支援、広域交流・地域活性化支援等を目的とした道路です。

本橋りょうは、橋長45m、構造形式はPC単純コンポ橋で、架設桁架設工法を採用しています。桁の重量は150t、桁の高さは3.2mと橋桁の大きさとしては最大級であり、桁の運搬から取り下ろし、また架設には細心の注意を払って施工を行いました。



Topics 6

ソヨギ橋〈極東興和株式会社〉

本工事は、東海北陸自動車道の白鳥ICから飛騨清見IC間(約41km)の4車線化工事に伴い、ソヨギ橋と一谷橋の2橋を3径間連続ラーメン箱桁橋にて施工しました。

工事場所である岐阜県郡上市高鷲町は、日本でも有数の豪雪地帯であり、雪によるスタック車両への対策や緊急医療、物流の効率化、更には世界遺産白川郷や長良川の鮎など、観光活性化への期待も大きい道路です。多い日には1日で2mを越す積雪のため冬季の施工も制限されます。

本工事では品質向上対策や施工方法の工夫、また多くの技術的提案等、技術と知識を駆使し、4車線化事業全体でも大幅な工程短縮に寄与することができました。



Topics 7

気仙大橋PC床版工事〈東日本コンクリート株式会社〉



復興のシンボルとなっている**奇跡の一本松**を間近に臨む本工事は、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市に位置する3径間連続非合成鋼箱桁橋のPC床版工事です。震災により流出した気仙大橋の復旧工事で、現在仮橋にて供用されている国道45号の一日も早い復旧を目指し、プレキャストPC床版構造にて計画されました。95枚のプレキャストPC床版を自社の巨理PC工場で作した後、架設工事と次工程を同時に進められる運搬架台及び架設架台によるクローラークレーン架設を行って工程の短縮を図りました。

復興のシンボルとなった
奇跡の一本松



Topics 8

大南野津8号橋〈極東興和株式会社〉

大分市と臼杵市を結ぶ広域農道整備事業は平成3年度より事業が開始され、2車線化が進められてきました。本橋は山間部を通過する橋りょうとしては最後の大型橋りょうであり、その山間部の狭隘な場所に架かる連結コンボ橋です。本橋りょうは地形上の課題も多く、様々な工夫のもと細心の注意を払いながら施工が行われました。

本橋りょうの完成により広域農道が全線開通し、地元の農産物流の合理化、農業生産の近代化への大きな貢献が期待されています。



災害支援活動

「数十年に一度」の特別警報から一夜明け、被害の全貌が明らかに 「平成30年7月豪雨」

本年7月に発生した「平成30年7月豪雨」、台風21号、また9月の北海道胆振北部地震と度重なる自然災害により亡くなられた方々へのご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

7月の豪雨災害では、当社グループが本拠地を置く広島をはじめ、広範に及び甚大な被害が発生いたしました。4か月が経過した今なお、一部の地域では避難生活を余儀なくされており、その傷跡を大きく残しています。こうした中、当社グループも微力ではございますが引き続いて復旧・復興に向けた活動・取り組みを続けてまいります。



国土交通省、広島市等の官公庁から要請を受け、極東興和株式会社では職員・重機を派遣し、災害支援活動を行いました。周辺の道路は流れ出た土砂で埋まり、すべての「交通」が遮断された状態の中で、一刻も早い復旧・早期開通に向けて、これまでに培ってきた経験・能力を活かし懸命に作業を遂行しました。

当社グループは社会貢献の面からも「人と人」「技術と技術」の橋渡しを活動の原点にこれからも行動し続けます。



● 四半期連結貸借対照表のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期末 平成30年9月30日現在	前連結会計年度末 平成30年3月31日現在
流動資産	14,639,703	14,681,315
固定資産	5,150,783	4,929,790
有形固定資産	4,354,913	4,091,939
無形固定資産	105,170	104,913
投資その他の資産	690,699	732,937
資産合計	19,790,487	19,611,106
流動負債	11,653,370	10,775,861
固定負債	2,496,973	3,223,760
負債合計	14,150,344	13,999,622
純資産	5,640,143	5,611,484
負債・純資産合計	19,790,487	19,611,106

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

● 四半期連結損益計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 平成30年4月1日～ 平成30年9月30日	前第2四半期累計期間 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日
売上高	10,481,860	11,108,190
売上原価	9,221,356	9,220,995
売上総利益	1,260,504	1,887,195
販売費及び一般管理費	1,193,064	1,119,677
営業利益	67,439	767,517
経常利益	68,744	771,604
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,755	478,383

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 平成30年4月1日～ 平成30年9月30日	前第2四半期累計期間 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	527,887	752,749
投資活動によるキャッシュ・フロー	△444,374	△377,243
財務活動によるキャッシュ・フロー	△660,098	△342,522
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△576,586	32,983
現金及び現金同等物の期首残高	3,609,432	1,765,000
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,032,846	1,797,983

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Point 四半期連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は197億90百万円となり、前連結会計年度末比1億79百万円の増加となりました。その主な要因は、未成工事支出金が6億40百万円、商品及び製品が4億6百万円、建物・構築物(純額)が3億14百万円、仕掛品が1億24百万円増加したものの、受取手形・完成工事未収入金等が8億33百万円、現金預金が4億56百万円減少したことによるものであります。有利子負債は5億44百万円減少し、36億39百万円となりました。純資産は、株主配当金1億16百万円の支払を実施したものの、株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権の行使及び譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による資本剰余金の1億5百万円増加、その他有価証券評価差額金の37百万円増加、親会社株主に帰属する四半期純利益7百万円の計上等により、前連結会計年度末比28百万円増加の56億40百万円となりました。

Point 四半期連結損益計算書

当第2四半期連結累計期間の売上高は104億81百万円(前年同期比5.6%減)、営業利益は67百万円(前年同期比91.2%減)、経常利益は68百万円(前年同期比91.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は7百万円(前年同期比98.4%減)となりました。

Point 四半期連結 キャッシュ・フロー計算書

「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前連結会計年度末に比べ5億76百万円減少し、30億32百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は5億27百万円の獲得(前年同期は7億52百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は4億44百万円の使用(前年同期は3億77百万円の使用)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は6億60百万円の使用(前年同期は3億42百万円の使用)となりました。

セグメント別受注実績

Order Received

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 平成30年4月1日～ 平成30年9月30日	前第2四半期累計期間 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日
建設事業	12,070,034	6,670,993
製品販売事業	1,328,744	1,443,040
情報システム事業	218,299	222,481
不動産賃貸事業	92,122	92,662
合計	13,709,200	8,429,177

会社概要

Corporate Profile

●会社概要 (平成30年9月30日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	3,017,041,000円
決算期	3月31日
従業員数	11名(連結543名)

●代表者及び役員 (平成30年9月30日現在)

代表取締役社長	藤田 公康
取締役	多賀 邦行
取締役	山根 隆志
取締役	山 縣 修
取締役	石井 一生
取締役	天津 武史
取締役・常勤監査等委員	藤 並 信幸
取締役・監査等委員(社外)	小 田 清和
取締役・監査等委員(社外)	佐 上 芳春

●グループの概況 (平成30年9月30日現在)

極東興和株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等



キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC製品及びコンクリート二次製品の
設計・製造・販売・施工等

ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ソフトウェアの設計・開発及び販売等

豊工業株式会社

本社所在地/大分市
事業内容/PC及びコンクリート二次製品の
製造・販売等

●株式の状況 (平成30年9月30日現在)

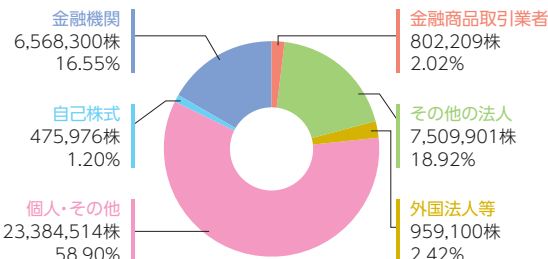
発行可能株式総数…………… 120,000,000株
 発行済株式の総数…………… 39,700,000株
 株主数…………… 31,738名

大株主 (上位10名)

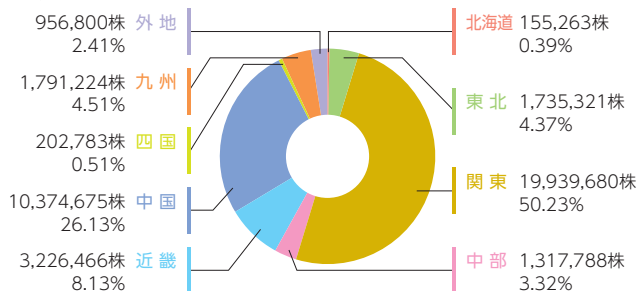
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
トウショウ産業株式会社	4,800	12.24
藤田 公 康	2,735	6.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,075	5.29
ビーアールグループ社員持株会	1,224	3.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,216	3.10
広成建設株式会社	988	2.52
ビーアールグループ取引先持株会広島支部	967	2.47
ビーアールグループ取引先持株会大阪支部	931	2.37
株式会社三菱UFJ銀行	800	2.04
遠藤 祐子	703	1.79

(注) 持株比率は自己株式(475千株)を控除して計算しております。

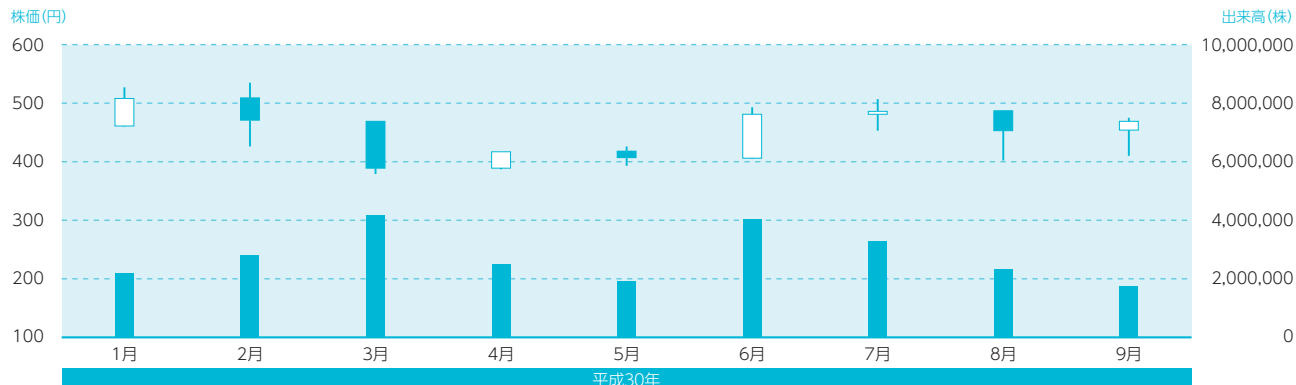
所有者別株式分布状況



地域別株式分布状況



●株価の推移



● 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第1部)
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (https://www.brhd.co.jp/ja/ir/announce.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。)

表紙写真について

東海北陸自動車道ソヨギ橋 (岐阜県郡上市) 2018年8月完成

日本有数の豪雪地帯のため、施工は夏季に集中して行われました。
白鳥IC-飛騨清見IC間(約41km)の4車線化により物流・観光の活性化が期待されます。

発注者：中日本高速道路株式会社
名古屋支社



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <https://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

